

種目（道徳）

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">東京書籍（新編 新しい道徳）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教材に自己を見つめる発問が示され、自分との関わりで考えを深める学習が展開できるように工夫されている。 ・ 道徳的価値に根差した問題を見付け、多面的・多角的に考えながら議論する学習指導過程を示す配慮がされている。 ・ 自分について考える教材に扉を付け、発展的な教材も付いて、自己の生き方の考えを深める学習に取り組めるよう工夫されている。
2 児童の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 叙述の読み取りを助けるために発達段階に応じた写真やイラストの効果的な配置により、教材の内容を十分に理解し学習が進められるように工夫されている。 (2) 冒頭を内容項目の視点と教材名に絞ることで、学級の実態に応じた柔軟な展開ができ、道徳的価値に迫る工夫がされている。 (3) 教材末の「考えよう」では、自己を見つめる発問が記号で分類して記載されており、児童も一目でわかる工夫がされている。 (4) 各学年「考えるためのツール」が巻末にあり、可視化された考えを客観視したり、友と比較したりできるように工夫されている。 (5) 弱視やディスレクシアに配慮したUDデジタル教科書体が採用され、吹き出しの利用などで児童が読みやすい工夫がされている。 (6) 内容理解を助け意欲的に考えられるよう、発達段階に応じて挿絵や写真、グラフ、表などの大きさや配置が工夫されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 低学年では絵や写真、中学年では身近な教材文、高学年では多様な教材が、発達段階に応じて適切に配置され、道徳的価値を多様な形で学べるよう工夫されている。 (2) 学校行事や児童の生活実態に即した指導内容と指導時期が考慮された教材が配列され、各校の全体計画に基づいた年間指導計画が効果的に作成できるように構成されている。 (3) 現代的な課題の五つのユニット（いじめ、いのち、じぶん、情報モラル、安心・安全）が全学年で示され、他教科と横断的に連携させながら学習展開しやすいよう工夫されている。 (4) 道徳的価値に迫るための場面の状況がより深く把握できるよう叙述と挿し絵のレイアウトが工夫されている。 (5) ICT端末を利用した「デジタルノート」だけでなく、教科書に直接書き込める教材もあり、児童が自らを振り返って成長を実感したことを把握できるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冒頭の情報量を減らし先入観なく教材を読める工夫や、叙述を助ける挿絵の大きさや配置の工夫、厳選された2つの発問の提示など、簡潔な構成のため実態に応じ柔軟に活用できる。 ・ 児童の生活実態に即した指導内容と指導時期が考慮され、特に現代的な課題については五つのユニットに分け全学年同時期に配列され、教科等横断的な学びが実現できるよう工夫されている。

種目（道徳）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">教育出版（小学道徳 はばたこう明日へ）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ内容項目の教材が、時期を変えて配置され、より深く、新たな観点で、児童が自己を見つめられる工夫がなされている。 ・ 「やってみよう」では、動作化や役割演技など、多様な視点から物事を見つめ、多面的・多角的に考えられる工夫がされている。 ・ 教材末の「深めよう」では、児童が自分事として考えることで、自己の生き方について考えを深められるよう配慮されている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 低学年では物語教材、中学年では生活教材、高学年では人物教材を重点的に扱うなど、発達段階に応じた配慮がなされている。 (2) 導入部にキャラクターによる吹き出しや二次元コードがあり、道徳的価値や教材内容へのスムーズな導入が意識されている。 (3) 「問題を解決しよう」では、自ら問題を見付け、主体的に考えられるような発問で、思考を促す配慮がなされている。 (4) モラルスキルトレーニングなど体験的な活動が複数回取り入れられ、多面的・多角的に考えられるような構成がなされている。 (5) 教材本文部とルビ部で異なったフォントの使用、当該学年の漢字や固有名詞などが登場する度に振り仮名が付けられているなど、発達段階に応じた配慮がなされている。 (6) 各学年の重点テーマが扱われている目次やページには、黄色の枠が付けられ、児童が重点テーマを意識する工夫がされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年に応じ、物語教材、生活教材、人物教材のバランスが配慮され、他教科や特別活動との連携を示すなど、児童の発達段階や教育活動全体を意識した多様な教材が配置されている。 (2) 本教材 30 本＋補充教材 5 本で構成され、補充教材に替えて、地域の偉人や風習、自作教材を扱うなど、地域や児童の実態に応じた指導計画を作成できるよう配慮がなされている。 (3) 重点テーマが全学年共通、学年ごとにも設定されており、複数の教材とコラムを合わせユニット化されており、多面的・多角的に考えることを促す工夫がされている。 (4) マンガ形式で並べられた絵、見開き全面のイラストなど、自由な発想を促し、内容理解につながるような配慮がなされている。 (5) 各教材末の振り返り欄、巻末の振り返りページなど自己を振り返る機会が複数あり、そこから児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握できるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年、各教材末に「学習のてびき」が設定され、児童が考え、議論しながら、自分の生き方についての考えを深められる発問が用意されている。 ・ 全学年共通のテーマの他に、学年毎に重点テーマを設定し、複数の教材とコラムを合わせユニット化し、多面的・多角的に考えることを促す工夫がされている。

種目（道徳）

発行者名 採択基準	光村図書出版（道徳 きみがいちばんひかるとき）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年冒頭の「道徳が始まるよ」で道徳の学び方が示され、児童が自己を見つめながら主体的に学べるよう工夫されている。 ・ 「図を使って考えよう」「演じて考えよう」などが設けられ、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ・ 教材末に「考えよう・話し合おう」が設けられ、学んだことを自分に引き寄せて考えられるよう発問が工夫されている。
2 児童の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 児童の発達段階に合わせ、学年に応じて重点的な内容項目が設けられ、確かな学習経験となるよう配慮されている。 (2) 複数の道徳的価値が含まれた「なんだろう なんだろう」が設けられ、児童が進んで考えられるよう配慮されている。 (3) キャラクターによる児童への呼びかけの言葉で、主体的に学習に取り組んだり、他教科や日常生活に学びにつながったり、自分のあり方を考えたりできるよう配慮されている。 (4) 体験的な学習「演じて考えよう」が設けられ、児童が実感をもって道徳的価値について考えが深められるよう配慮されている。 (5) 本文に光村教科書体を使用したり、B5変型判を用いたりして、小学生が手に持ちやすく扱いやすいよう配慮されている。 (6) 色の別だけに頼らず、文字の説明を加えるなど、色を見分けにくい児童にも情報が伝わるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 読み物教材だけでなく、漫画形式の教材、見開きの1枚絵や写真からなる教材など、多様な教材が位置付けられるよう配慮されている。 (2) 清掃活動、学級会、給食、遠足、保護者参観など、多くの学校で行われている活動や行事を題材にした教材が位置付けられ、学校の実態に応じて指導計画が作成できるよう配慮されている。 (3) 現代的な課題について、教材＋コラムで構成した「ユニット」が設置され、6年間でSDGsに示されている17の目標全てに触れられるよう配慮されている。 (4) 登場人物を把握しやすいよう、挿絵に登場人物名が添えられ、教材の内容把握に負担を感じさせないよう配慮されている。 (5) 巻末折込の「学びの記録」にシールを貼ったり、一言感想を書き込んだりして自己評価を行い、児童が自分の変化や成長を自覚している様子を把握できるよう配慮されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材は「導入→教材→学習のてびき」で構成されており、キャラクターや登場人物による呼びかけで、問題解決的な学習、体験的な学習が可能となるよう構成されている。 ・ 多様な教材により児童がさまざまな道徳的価値に触れ、発達段階に合わせて対話する力を育み、教材を通して学んだことを自分に引き寄せて考えることができるよう配慮されている。

種目（道徳）

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	日本文教出版（小学道徳 生きる力）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人との関わりを大切にした豊富な教材や発達段階に応じた道徳ノート構成等、自己を見つめられるよう工夫されている。 ・ 話合いや役割演技など、体験的に学ぶ多様な学習方法が示されており、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ・ 教材文末に2点に絞った課題の提示とさらに考えを深める資料を掲載し、自己の生き方について考えを深める工夫がされている。
2 児童の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発達段階に応じて絵や文字の量のバランスが工夫されており、児童が取り組みやすいように配慮されている。 (2) 教材の冒頭に内容項目に関するキーワード、教材文の概要や登場人物、学習内容に関わる発問例を示し、児童が見通しをもって主体的に学習を進められるよう配慮されている。 (3) 教材のねらいにせまる発問と自分自身を振り返る発問の2点を端的に示し、自己を見つめて学習できるよう工夫されている。 (4) 話合いや役割演技等、体験的に学ぶ学習やコラム、ワークシートを盛り込み、多面的・多角的に考える工夫がされている。 (5) 読みづらさが学習の妨げにならないよう、UDデジタル教科書体を使用したり、文章を短く区切ったり工夫がされている。 (6) 教材に関する写真が複数掲載されていたり、表情が鮮明に表現されていたり、教材内容を把握しやすいよう工夫されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発達段階に応じて児童が自分ごととして捉えやすいよう、現代的・社会的な課題への対応を考える教材や学校生活と結び付けて考える教材が多く配置されている。 (2) 年間 35 時間分の教材の他に「ふろく」として3教材が収められており、学校の実態に応じて教材を選択したり、自主学習に役立てたりできるよう配慮されている。 (3) 現代的な課題であるいじめを間接的に扱った教材を年間3回設定し、その前後で生命の尊さに関する教材を配列し、いじめを許さない心を育てる工夫がされている。 (4) 道徳的価値の理解のために鮮明な写真を複数掲載し、児童の興味・関心を引き出して指導を展開できるよう工夫されている。 (5) 別冊の「どうとくノート」に学習の記録をし、児童が自己を見つめ、学習の積み重ねを実感できるようにするとともに、教師が児童の学習の様子を把握できるように工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の経験とつながる場面を多く取り上げ、自己を見つめる発問を配置したり、鮮明な写真や表情が分かる大きなイラストを掲載したりして児童が考えやすくなる配慮がされている。 ・ 児童の発達段階に配慮した記入方法の道徳ノートが付属しており、継続して道徳的価値について考えを深めたり、自分の成長を実感したりできるよう工夫されている。

種目（道徳）

<div style="text-align: right;">発行者名</div> <div style="text-align: left;">採択基準</div>	<p style="text-align: center;">光文書院（小学道徳 ゆたかな心）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材の冒頭に「問い」を提示し、児童が自己を見つめ、問題意識を明確にした上で学習できるように配慮されている。 ・ 各教材中にある「かんがえよう」では、多面的・多角的に考えることができる発問を提示し、児童の思考を促す配慮がされている。 ・ 終末の「まとめよう」「ひろげよう」の発問では、学びを振り返り、自己の生き方についての考えを深められる工夫がされている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、イラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自分のこととして考えやすい話題や、人間として生き方に迫る話など、多様な教材が発達段階に合わせて適切に配置されている。 (2) 一枚絵や写真、漫画などの表現方法を取り入れ、児童の興味・関心を喚起し、日常生活や自分との関わりを意識付けることで、道徳的価値の追求に結び付ける工夫がされている。 (3) 各教材にある2種類の「かんがえよう」の発問を通して児童が自ら考え、主体的・対話的に学習できるような工夫がされている。 (4) 学年冒頭「いろいろなやり方で考えてみよう」の思考ツールの活用方法紹介の中で、体験的な学習について提案されている。 (5) 文章の読みやすさを考慮し、漢字は前学年までに習ったものを使用し、必要に応じて言葉に脚注を付けるなど配慮がされている。 (6) 必要に応じて教材の冒頭に登場人物の顔イラストを表示し、教材の内容場面を捉えやすくする配慮がされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年ごと設定された「重点主題」を、発達段階に応じて6年間系統立てて指導できるよう多様な教材が配列されている。 (2) 各学年とも40本の教材が掲載されており、指導計画に応じて選択ができるなど、学校や地域、児童の実態に合わせた多様な指導に対応できる配慮がされている。 (3) いじめなど現代的な課題については、全学年ともテーマごと教材が続けて配置され、児童がそのテーマについて深く考えることができるよう工夫がされている。 (4) さし絵や写真は、教材の内容理解を助けるものとして、大きさが適切に配置され、特に二次元コードが付いた教材では、動画を視聴できるなど、学習指導に生かせる工夫がされている。 (5) 巻末に、学年の発達段階に応じた自己評価シート「学びの足あと」を設け、1年間振り返りを重ねていくことで、教師が児童の学習の様子を把握できるよう工夫がされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年のどの教材にも冒頭の問い、考えを促す発問、終末の振り返りの発問が共通して明示され、授業のねらいや流れを意識し、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ・ 各学年とも40本の教材に加え、コラムを適所に設置することで、学校や児童の実態に沿った多様な指導に対応できるように配慮されている。

種目（道徳）

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	Gakken（新版 みんなの道徳）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材に主題を明示しないことで児童が主体的かつ多面的・多角的に考えられるような配慮がされている。 ・ 様々な人の生き方に触れることで、自己を見つめ、生き方についての考えを深められるような配慮がされている。 ・ 厳選された発問を配置することにより道徳的な判断力や心情、実践意欲と態度を育てる配慮がされている。
2 児童の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 役割演技、身近な出来事に置き換える工夫等が盛り込まれ、発達段階に応じた学習への配慮がされている。 (2) タイトル部分に教材中の印象的な言葉（キーフレーズ）を配置し、教材への児童の関心をかきたてるような工夫がされている。 (3) 適切な数と内容の厳選された発問が全教材に配置され、自由度をもって考えを広げられる工夫がされている。 (4) 全ての教材で、自分を取り巻く現代的な課題が色分けされたマークで示され、児童が自分の生活経験と道徳的価値を結び付けながら、主体的・対話的に学べるよう工夫されている。 (5) 見開きで始まる工夫とユニバーサルフォントやカラーの使用がなされ、教材の内容把握がしやすいよう配慮されている。 (6) 読み手と同学年の人物を主人公として複数の教材に渡り登場するようにすることで、情景把握の助けとなるよう工夫されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 発達段階に応じて自分事として課題に向き合える教材と厳選された発問が児童自身でよりよい生き方を広く深く学べるよう配列されている。 (2) 全国各地の地域教材、現代的な課題を効果的に配し、主体的に自分の思いをもち他者と対話的に考えを深められるよう児童の実態に応じた柔軟な指導計画作成への配慮がなされている。 (3) 「いのち」を最重要テーマに、内容項目の異なる教材を組み合わせたユニットで多面的・多角的に考えを深める工夫がなされ、年間を通じて「いじめ防止」に関連する教材が配置されている。 (4) 見開きで写真や教材を提示することで、児童が内容を正確に把握し、主体的に学んでいけるような工夫がされている。 (5) 数か所のメモ欄、巻頭巻末の「自分の記録」や「学びの記録」で自分の考えや成長の可視化が可能となり、保護者や友達と思考の足跡を共有できる工夫がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材に主題が明示されないこと、自己を見つめ考えを広げる厳選された発問により、多様な価値観を引き出し、児童が主体的かつ多面的・多角的に考えられるような配慮がされている。 ・ 特設ページ等で主体的・対話的な学びや考えを深められる授業の提案が示されており、授業者が自由な発想を生かして学習を展開できるよう工夫されている。